

うしく里山の会 広報誌

さとやま

(No. 65 2008年7月号)

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>



丹誠込めて咲かした

花菖蒲一萬株

アヤメ受託事業 佐藤 輝雄

アヤメ受託事業4年目の景観

六月十日頃から「うしくアヤメ園」の花菖蒲は見頃を迎えました。私たち、アヤメプロジェクトのメンバーは、アヤメ園に来園される皆さんに少しでも多く喜んでいただけるよう、月・木曜日の定例作業の日（雨で作業ができない場合は翌日に順延）や、土・日曜日にも臨時で八時から十六時ごろまで管理作業を行うことが多くなってきました。

最近市内や近隣の老人ホームや障害者自立支援施設の方々が多く来園され、介護師の人たちと楽しく時を過ごされる姿が見られます。

先日は、水戸の方から観光バスの一行が来園され「一本一本の花がともきれい！」と作業する私たちに声をかけてくれました。日差しの強い中、汗を流している私たちが一番喜びを感じる一言です。今年、水の管理（配管の調整等）をよくしたためか、例年になく一面に水張りが良く、メダカやカエル・ザリガニなどの水生生物が多く見られ、大人も子供も花菖蒲の畝の間を列をつくって泳ぐ姿に歓声をあげています。

今年、花のシーズンが終わりますと「株分け」の作業がまっています。「この株分けは夏の暑い時期に済ませないと、根の活着が遅れてしまい秋に入り生育が止まってしまいます。ですから、時間の余裕がありません。全員泥まみれの覚悟で格闘します。

私たちは花菖蒲ばかりでなく周りの環境にも気を配り、アヤメ園から牛久沼の水面が一望できるように、稲荷川の土手の草刈もしてきました。これからもより一層「うしくアヤメ園」を育てていく思いで頑張っていきます。



うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。

プロジェクト 活動報告

先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！

巨木リサーチ事業報告 田澤 七郎

第四回、第五回の調査に参加して

今回は都合で第四回の五月二十四日(土)と第五回の六月一日(日)をまとめて報告します。先ず第四回目。この日は生憎の曇りで目の覚めるような緑を楽しむことは出来ませんでした。しかし、このような日の方がかえって物の形がはつきりと見えるような気がします。余談になりますが、私の郷里の新潟はこんな日が多いので、多分心が落ち着くのかも知れません。私はこれを密かに北陸の空と呼んでいます。参考までに昭和二十年頃の高田測候所によれば、同地方では雲一つない快晴日は年間に三日しかなかったという発表の記憶があります。

本題に戻ります。当日は朝八時半市役所玄関前に十四名集合(内女性三名)。目的地の第一は桂町の中山良夫氏宅のイロハモミジ、第二は島田町の永沼正夫氏宅のケヤキ二本とスギ及びサイカチ等です。都合で調査は当初の予定より縮小。樹高Gも三年目であり測定は順調に進み、十一時頃に作業は終了解散となりましたが、飯田、田澤、平塚、増田の四名は宿題であった井ノ岡町の六十塚のヤマザクラ(この花期は見事です)の再調査に向かいました。この木は数メートルの高さの塚の上にあります、しかも三、四メートルのアズマネザサの藪に囲まれていますので、これまで測定出来なかったところ、新兵器?のレーザー測高器トウルーパールスを使いこなすことよって測定は完了しました。作業は十二時終了。実際にこの器具は大したもので、あ

まり良い例ではありませんが、太平洋戦争当時の米海軍のレーダーの如き優秀さでした。

第五回目、六月一日

(日)の調査の第一は牛久町の名児耶清吉氏宅



トウルーパールによる樹高測定 戸塚 08.5.24

のイヌザクラとヒマラヤスギ、第二は田宮町の確実園(川原田邦彦社長)のハンカチノキでした。集合は市役所玄関前に九時四十分、牛久駅西口に九時五十分とし、最終的には十七名が集合(内女性四名)。この日は前回と打って変って五月晴れの上天気。木々の緑が眼に痛いほどの一日でした。確実園のハンカチノキは以前とちがって深いヤブの中に移動しており、樹高測定はほぼ不可能に近く、今後の課題となりました。作業終了は十二時。それにしても、牛久の巨木や古木の多さには驚かされます。わが郷里の山村にはあまり見られませんが、最近では雪が少なくなっていますが、かつては確かに冬は豪雪と寒さの『北越雪譜』の世界でしたから。一方、古代から豊穡といわれたこの常陸の国は天災も少なく気候も穏やかで、木々は伸び伸びと育ったと思われる。この生物に優しい環境を失いたくないものです。

完



牛久自然観察の森報告

斉藤 孝

新ボランティア募集のお知らせ

森はみんなの宝物！

会員の皆さんのパワーを森へ！

新ボランティア

『観察の森 もっといい場所増やし隊』発足！

七月以降、牛久自然観察の森内の野外施設の改修作業やベンチ作りなどのボランティア活動を月一回の頻度で行っていきます。次回以降は里山の会員だけでなくインターンの大学生の参加も予定しています。森を拠点にたくさんの方の輪を広げて行きましょう！という事でその第一弾は「カッパ沼の竹柵交換ボランティア」作業を行います！これは 長期間の使用で強度が落ちて折れてしまった竹柵の交換を行う活動です。ロープワークに自信のある方、覚えたい方の参加をお待ちしています。

【活動日】

七月九日水曜日 午後一時～四時三〇分

(雨天決行)

使用する道具の都合上、参加希望の方は前

日までにお電話にてお知らせ下さい

牛久自然観察の森029-874-6600 (担当/渡邊)

お知らせ 観察の森第1駐車場トイレがウ

オッシュレット式に変わって更に使い易くなり

ました。来園時にぜひご確認下さい！



結束町みどりの保全区エコアップ 作戦活動報告

斉藤 孝

うしく里山の会全体事業、結束町みどりの保全区エコアップ作戦」参加者募集のお知らせ

七月は十九日と二十日の実施となります。元気な森づくりを行いましょ！なお、八月はお休みとなります。

七月十九日(土)午後一時～三時三〇分

七月二十日(日)午後一時～三時三〇分

集合場所・時間 いずれもネイチャーセンター一階倉庫前・予約不要(雨天中止/強風時中止)
持ち物 長靴、軍手、タオル、帽子、飲み物(長袖、長ズボン)

各種の暑さ対策グッズを持参することをおすすめします。

刈払い機やチェーンソーの

使用は資格所有者に限ります。

問合せ先

029-874-6600

担当：石神



休憩タイム



じゃがいもプロジェクト活動報告

本多 昭子

第三回目

活動日 五月十七日 九時～十一時

参加者 二十二名

(会員七名・一般参加者十五名(六家族))

活動内容 除草、芽かき、土寄せ、畝づくり

さつまいも畝づくりから植付け

じゃがいもの芽かきと土寄せは除草をしながらの仕事。キタアカリとアンデスレッドは目だって生育良好。男爵とメイクインは若干ゆっくりした生育。テントウムシダマシとその卵の駆除。今年の種芋からの部分には見あたらぬ。

里芋の発芽は目に留まりにくいので、目印として棒を立てる。

さつまいもの植え付けは、男性会員が技量を發揮して畝づくり。前年の芋から発芽して育っていたものを掘ながら、四〇センチ間隔程度に植え込み箇所も準備してくれました。一般参加者の人は苗を持って二畝に横並びで待望のさつまいもの植え付けを体験しました。一見シヨンボリ状態の苗の姿で心配のようでしたが、先人の「これでよいのです」という言葉に納得できたでしょうか。

こんな大人の会話の合間に、四歳のKくんは「誰にも云わない」といつ約束で、会員の一人と行動を共にしました。そこにはどんな感動があったのでしょうか！あまりの嬉しさから即お父さんに報告しま

した。「カフトムシの幼虫！」

さつまいもの畝づくりで撤去されたじゃがいもは参加家族にお持ち帰り品になりました。ものすゝい小粒やら不揃いですが、どんな形のご馳走になったのでしょつか。十一時二〇分過ぎには道具を洗って片付けて散会になりました。

第四回目

活動日 六月七日 活動時間九時～十一時

参加者 十一名

会員四名、一般参加七名（四家族）

活動内容 除草と土寄せ

里芋にも土寄せと畝づくり

里芋の芽は雑草の中で目に留まりにくいので除草はプロ級の会員二名に専念してもらおう。その後の土寄せには、一般参加の人も鍬の扱いを教わりながら三畝を見事に完成させた。

じゃがいもは雨に打たれて生え際から横倒しに広がったものには、土寄せをした。男爵の花が少ないのはどうしてなのか。除草は雨後だから容易ではない。里芋は一五センチほどの生育。

あの旨味は、収穫までの長期間かけることからこそ作られるのでしょうか。さつまいもの苗は元気な姿になっていたので植えた皆さんには納得・安心していただけました。

「ちょっと見せて」と立ち寄ったのが因果で最後までしっかりと手伝ってくれたTさん、ありがとうございました。相互の精神で体験学習には何時でも「ちょっと立ち寄って」ください。ここには畑

の博士がたくさんいます。

K君（四歳）の今日の宝物は、一番早くから動いていた彼だけのビニール袋でした。中身は小さいものを集めたもの。

前回の五月の「カフトムシの幼虫」気にかけていてくれました。今日は彼の期待には添えられませんでした。ゴメンナサイ。畑に専念するばかりでした。休憩タイムには、Kさんのごみ仕立てのサツマイモをご馳走でした。この優しさが森の畑の魅力を倍増させているのかな。

収穫祭まで、この後の二回ほどを楽しみながらガンバロウ！。収穫祭は七月十九日です。当日のみの参加も大歓迎です。



南部の自然を守る会お知らせ

阿部 幸浩

地元の方々との共同作業を実施します。是非ご参加ください。（遠山・成井地区）

日時：七月六日（日）八時～十二時
 内容：水田、農道周りの草刈り作業
 集合：成井公会堂八時前には集合願います
 持ち物：汚れてもよい服装（長袖・手袋）
 その他：お弁当とお茶を用意します。

参加希望者は六月末までに坂までご連絡ください。

メール kyu-saka@y4.so-net.ne.jp

携帯 080-1050-5666



里山自然観察隊活動報告

本田 寛

第二回植物ガイド「初夏の里山の草木を見る」

六月十四日（土）、午前九時から三時間半、豊かな里山が維持されている「牛久自然観察の森」内で「第二回植物ガイド」が実施されました。参加者は里山の会・会員九名、一般参加七名、計十六名。当日は穏やかな五月晴れ。

まず渡辺泰さんから里山植物の観察方法のポイントを示して頂き、牛久市内には自生する植物（約六百種）を在来種、帰化種、絶滅危惧種に区分し、生育区域（攪乱地、草刈地、落葉林、常緑林、湿地及び水辺）毎に視ることを学びました。

今回は落葉樹林、草刈地、常緑樹林の草木を順々に観察し、視覚だけでなく触覚、臭覚、味覚等を使うことも教わりました。観察した植物種は約百種。落葉樹林の植生としてはコシユケイの林で観察。クヌギとコナラが木肌で区別できること、赤い実を持った野性のウグイスカグラが庭木としても用いられていること等に興味を持ちました。ノアザミ、ニガナ等も綺麗な花をつけていました。絶滅危惧種が最も多く残っている生育地域は落葉林内とのことですが、今回はクララを確認できました。草刈地の植物はバッタの原で観察。草刈地には多くの外来種が生育し、シロツメクサ、コマツブツメクサ、アカツメクサ、キキョウソウ等何れも外来種

とのこと。「コメツブツメクサの小さい根粒を観察し、マメ科植物と根粒バクテリアとの共生を学び、美しい紫色の花を持つキキョウソウは果実の小さな穴から種子を転がり落とし種を増やすその巧妙な繁殖方法が面白いと思い、在来種のギンギシと帰化種のナガバギンギシの葉形の違いも比較することができました。

常緑樹林の草木はヒゲラシの林等で観察。アオキ、ヤツデ、ヒサカキ等日陰でも力強く生育する種とエビネ、ヤブレガサの様な絶滅危惧種が同じ林で共存しているのが対照的でした。絶滅危惧種は環境の変化に対応できなかった種なのでしょうか。アオキ、ハナイカダ、サンショウのように雌雄異株の植物には、子孫を残す方法の逞しさを感じました。今回、数千年前牛久に海が迫っていた証のタブノキ、ヨーロッパ由来のツメクサ類に及んだ観察会に参加し、時間・空間の広大さに思いを馳せ心が洗われた思いがしました。

尚、次回の「植物観察会」は七月十二日（土）、観察の森駐車場九時集合。観察場所は小野川沿いの湿地（水田）。問い合わせ先

029-873-6426（平塚）



少希木・古木の今月 No.15 タブノキ

高さ十五メートルに達するクスノキ科の常緑高木です。別名イヌグスとも呼ばれるタブノキは、古い朝鮮語の「丸木舟を作る木」が訛ったとも言われています。日本では本州・四国・九州の照葉樹林に生育し、関東地方には巨木が多く、茨城県指定の天然記念物

「波崎の大タブ」はその一つです。牛久では、牛久町吉田正氏宅の裏庭と城中町木村勇次郎氏宅西側の牛久沼東斜面の二箇所で見られます。吉田氏宅のタブノキは元禄年間、鳥が持つて来た種が成長したものだと言ひ伝えられているそうです。

枝振りは大きく広がり、葉が枝先に集中し、雄大な樹形になります。小枝は赤みを帯びた緑色。葉は倒卵状長楕円形で互生し、先はやや急に突出して鈍頭で、表面は光沢があり、裏面はやや粉白色を帯びます。五月ごろ、枝先に円錐花序を出し、径九ミリほどの黄緑色の花を咲かせます。樹皮は、八丈島では黄八文の染料としてかば色をだすのに用いられます。

（村尾重信）



タブノキの葉と花序 08.5.5

コラム

村の生活

境界木（きょうつかいばく）

山林や田畑など境界が確定したら、隣地の所有者と話し合いで、目印の木を植えておく場合があります。これが境界木と言われるものです。本来は、尾根筋、沢筋を基準とした自然境界が基本ですが、境界木を植えたり、土手を築いたり、石垣を組んだり、それぞれ地方や場所によってやり方が異なります。植えられる木はほぼ決まっています。杉林の境界には檜を植える。土地の角に柿の木を植えるなど。ちなみに牛久周辺では畑は「ウツギ」、山林は「カマツカ」などが植えられています。

境界というものはつきりされてきたのが明治初期で、地租改正事業および地押調査事業と言つ国の事業で「区画」と「地番」が定められました。一口に「境界」と言っても、定義は複雑で、不動産登記法でいつ「筆界（ひつかい）」と筆界で囲まれた区画を一筆地といいます。この筆界のことを「公法」上の境界といつて個人の意思では変更できません。そして土地家屋調査士が扱う境界はこの筆界と言つことになります。現在の土地の分筆等の登記申請をする場合には申請書に「地積測量図」の添付が必要です。この地積測量図には、原則、当該土地の境界標を記載することとなっています。

そして、地積測量図に記載される境界標は、永続性のある石杭、コンクリート杭、合成樹脂、または、不銹鋼等の耐久性を有し、かつ容易に移動しないように埋設されているものに限るとされています。(昭和五十一年九月三日法務省民事局第三課長)と言つことと、土地が細分化され地価の高騰などで境界紛争が多発する現代においては、上記のように永続性があつて移動されない構造物とされ、境界木は過去の文化遺産となつてしまいました。

坂 弘毅



ウツギの境界木 田宮町



自然観察出前講座

親子ふれあい体験報告

坂 弘毅

「牛久沼周辺の自然と歴史を考えよう」

六月十四日(土)恒例の親子ふれあい体験が牛久市社会福祉協議会との共催で開催されました。集まったのは、十一家族二十九人で牛久をもっと知りたいという熱心な家族ばかりでした。船には三グループに別れ、アヤマ園の自然観察 城中の歴史探検 船上と別行動になりましたが、五月晴れに恵まれた最高の親子ふれあい体験日となりました。

普段見られない牛久沼を船上から観察しながら、船長の犬野清さんから牛久沼の歴史・櫻井庄兵衛の苦労話や都市化の波で水質が悪化していった経緯などを詳しく説明を受け、こんな大事な牛久沼をもっときれいにしたいねと囁く親子も見受けられました。

約四〇分の湖上観

察から戻り、今度は城中の歴史探検です。六千年前は海水面が六メートルも高く、牛久沼は海の底だったという説明から始まり、その証拠を探しため城中巨塚を探検しました。旧牛久城の



一部になる丘陵の上にも今でも巨塚が現存します。付近には土器のかけらもあつて、当時の縄文人は豊かな食生活をしていた証しと考えられます。ここに立つて目をつぶってみると、渚に押し寄せるさざ波の音が聞こえてくるような気がします。子供たちの目は畑に釘付け、お父さんお母さんも感激しきりでした。

巨塚を後にした一行は、小川芋銭の生家であつた雲魚亭を訪れ、靴を脱いで邸内を見学。その後、河童の碑、陣屋跡、牛久城の土塁を見て、芋銭の小径を通りアヤマ園に戻りました。全員の到着を待つて三日月橋生涯学習センターでランチタイムです。食事の後、簡さんか

ら牛久の民話「かっぱ松」の絵本の読み聞かせがあり、親子揃つて真剣に耳を傾けました。天候にも恵まれ、船長の犬野さんのお話や参加者の感想など異口同音に「素晴らし体験だった」でした。



お手伝いいただいた石神さん、戸塚さん、成井さん、假谷さん、簡さん本当にお疲れ様でした。

森林総合研究所受託事業のお知らせ

うしく里山の会では独立行政法人森林総合研究所の「もりの展示ルーム」説明員（夏休み期間中）を四年前から受託して参りました。今年も当該事業の入札に参加するため、書類を提出しております。受託はまだ決定しておりませんが、時間がありませんので先行募集をいたします。

内容・つくばちびっ子博士の会場になる、もりの展示ルームにおいて来館者への説明業務。

期間・七月十八日（金）～八月三十一日（日）

ただし、お盆八月十一日～十五日は休館

人員・一日二人

担当業務・もりの展示ルームの開館から閉館まで

全ての管理と説明業務。

（鍵の解錠・施錠、PCの立ち上げ、大型ディスプレイの立ち上げとDVD操作、ショーケースの清掃、床の清掃、実験道具のチェック、水の補給、配付資料の手配、来館者へ展示物の説明及び質問事項のとりまとめ、業務日誌の作成と報告）

募集条件・

展示ルーム開館期間前に三時間程度のレクチャーに参加できること（必須）。このレクチャーで研究成果等全てについて理解できる方。

森林に関する知識、植物・昆虫などの研究ま

たは調査に関する経験を有すること。
案内業務や説明業務の知識と経験を有すること。責任感のあるひと。

以上が今年度の仕様書の条件となります。その他

当該事業は有償となります。日当および交通費が支給されます。お弁当は各自持参ください。応募者多数の場合は事務局で選考とさせていただきます。

***入札で不採用になる可能性もありますので、その節はご了承ください。**

希望者は七月十一日までに坂までご連絡ください。

メール kyu-saka@yc4.so-net.ne.jp

携帯 080-1050-5666



もりの展示ルーム
木材の浮沈テスト

6月度運営委員会からのお知らせ

夏の活動中に関する注意事項

夏季期間中は光化学スモッグの発生が懸念されます。警報（防災うしく等）が出たら速やかに屋内に待避するようにしてください。そろそろスズメバチが繁殖期に入ります。通常では七月から十月の期間とされますので、注意してください。森にはいるときなど、香りの強い香水・オーデコロン・整髪料はできるだけつけないこと、明るい色の服装で行動するようにお願いいたします。

各プロジェクトには「ポイズンリムバ」という蜂の毒を吸い出す器具が配布されています。

イベント参加

八月二十四日に下根運動公園体育館で開催予定の、「うしく ニニコ エコ フェスタ」（牛久市青年会議所主催）といつイベントに会として参加します。各プロジェクトでは出展の準備をお願いいたします。

詳しくは追ってお知らせします。

来客

七月十三日、小美玉市の生涯学習課より、うしく里山の会を視察したい旨要請がありました。来られるのは「青少年を育てる小美玉市民の会」一行です。うしく里山の会の活動について意見交換および、観察の森視察です。

7月の里山カレンダー

* 活動日は都合により変更になる場合がありますので、最新情報はホームページでご確認ください。

日	月	火	水	木	金	土
		1 雑木林応援隊(畑) 9:30 畑	2	3 アヤマ園(受) 8:00 アヤマ園	4	5
6 巨木リサーチ(受) 8:30 市役所玄関 南部の自然を守る会 8:00 成井公会堂	7 休園日 アヤマ園(受) 8:00 アヤマ園	8 雑木林応援隊(畑) 9:30 畑 巨木リサーチ(受) 研修	9 巨木リサーチ (受 研修)	10 アヤマ園(受) 8:00 アヤマ園	11	12 里山自然観察隊 9:00 森P じゃがいも そば 9:00 畑 会報原稿✂切り
13 雑木林応援隊 9:00 ムジナ	14 休園日 アヤマ園(受) 8:00 アヤマ園	15 雑木林応援隊(畑) 9:30 畑	16	17 アヤマ園(受) 8:00 アヤマ園	18	19 じゃがいも そば 9:00 畑 エコアップ作戦 1:00 NC
20 運営委員会 9:00NC エコアップ作戦 13:00NC	21 アヤマ園(受) 8:00 アヤマ園	22 休園日 雑木林応援隊(畑) 9:30 畑	23 休園日	24 アヤマ園(受) 8:00 アヤマ園	25	26 巨木リサーチ(受) 8:30 得月院P
27 雑木林応援隊 9:00 炭小屋	28 休園日 アヤマ園(受) 8:00 アヤマ園	29 雑木林応援隊(畑) 9:30 畑	30 会報発送 1:00NC	31 アヤマ園(受) 8:00 アヤマ園		

凡例 森:観察の森 NC:ネイチャーセンター P:駐車場 炭小屋:観察の森梅林奥の炭小屋 畑:観察の森梅林奥の畑
コジュケイ:観察の森コジュケイの林 観察舎畑:観察の森観察舎前の畑 ムジナ:結束町の雑木林 市役所:市役所本庁舎
アヤマ園:三日月橋観光アヤマ園 (受):受託事業 休園日:観察の森休園日

編集後記

六月十四日朝に発生した「岩手・宮城内陸地震」の被害にあわれた方々に、心からお見舞い申し上げます。私もこの時間、アヤマ園で作業していたら池や畝の水面が、バケツをゆすったようにバシャバシャゆれて来園の方も含めて思わず立ちすくみました。

そんなことを露知らずと今盛んに「ホトトギス」の鳴き声を聞くことができます。

キョッキョッキョ キョッキョッキョキョ!

私たちは「特許許可局」「テッペンカケタカ」などで表現していることで知られています。

この「ホトトギス」はアフリカ東部からインド・中国の南部に生息して、五月ごろに日本に来る渡り鳥で食性は肉食で毛虫を好んで食べるようです。「ホトトギス」の子育ては託卵といって、よくウグイスの巣などに卵を産みつけ、おまけにウグイスに気づかれないようウグイスの卵を一つ落として、数のつじつまを合わせ子育てを任せるようです。木がくれて茶摘ときげやほととぎす(芭蕉) 信長・秀吉・家康の性格を表す歌にもあり自然を感じさせる「ホトトギス」ですが、一部人間の世界にも当てはまりそうです。

(佐藤輝雄記)

広報委員会からのお知らせ

次号7月号の印刷発送は7月30日(水)午後1時からです。お手伝いいただける方はネイチャーセンターまでお越しください。よろしくお願いたします。